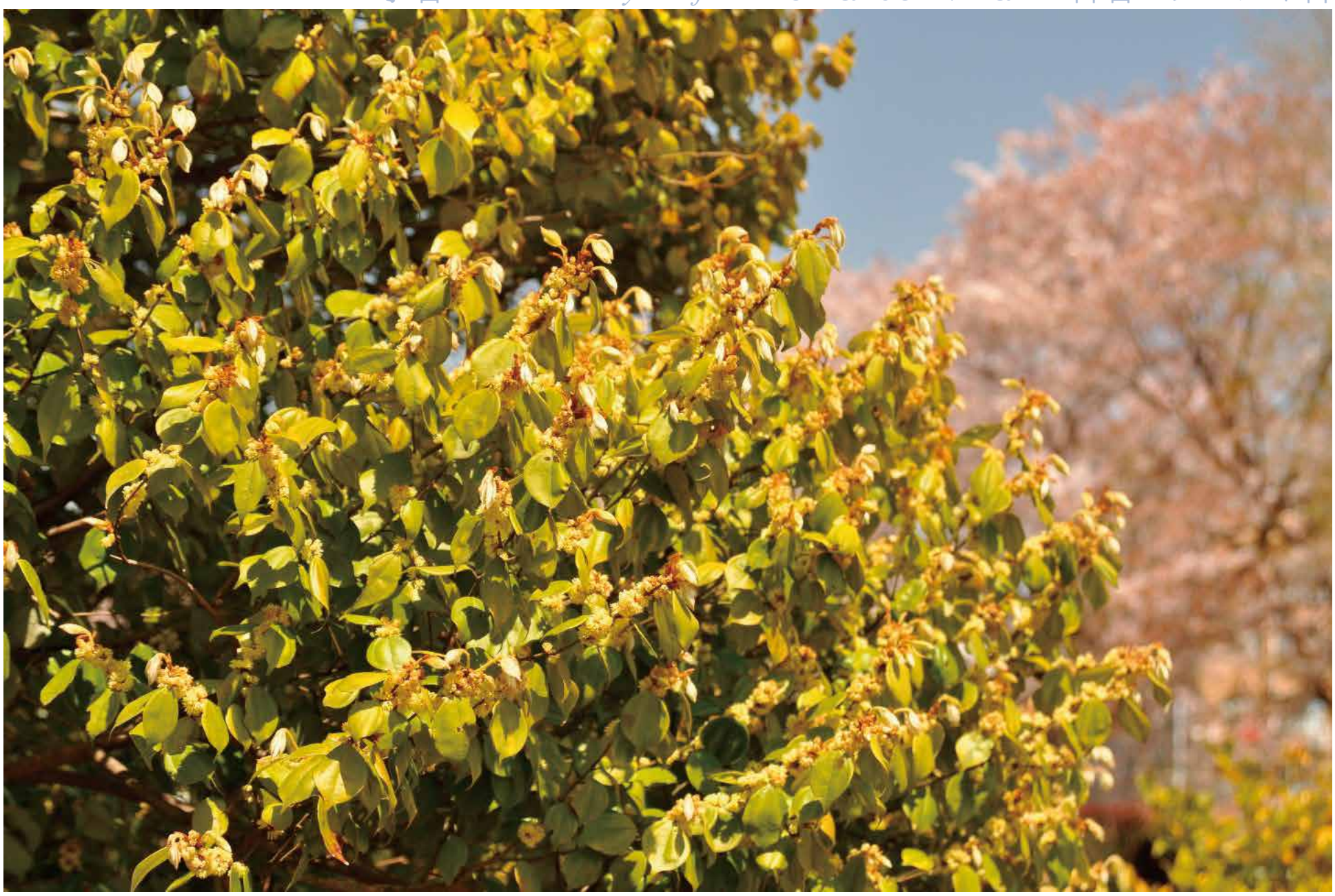
始皇帝が求めた霊薬

テンダイウヤク

学名：*Lindera strychnifolia* Fernandez-Villar　科名：クスノキ科



広大な中国の国土を初めて統一した秦の始皇帝の命により、術士であった徐福（ジョフク）は不老長寿の薬を求め、東方へ船出したという伝説があります。その旅路で見つけた不老長寿の霊薬が、テンダイウヤクといわれています。またテンダイウヤクの「天台」とは、中国南部の浙江省天台地方を指します。そこで採れた烏薬（ウヤク）は質が良いとされていたため、その名が付きました。

テンダイウヤクは中国原産であり、静岡県、近畿地方南部、九州などで野生化した常緑低木です。3～4月に淡黄色の小さい花を咲かせ、果実は球状で秋になると黒紫色に熟します。根の肥大部分を「烏薬」といい、味は苦く、楠脳のような香りがします。

烏薬は、芳香健胃整腸薬や鎮痙薬、鎮痛薬として消化不良や腹痛、月経時の痛み止めに用いられます。漢方薬の中では、血流を促し体を温め、体力低下や月経不順に効果がある芎帰調血飲（キュウキチョウケツイン）や四肢の痛み、肩こりに用いる烏薬順気散（ウヤクジュンキサン）などに配合されています。

生薬名	烏薬（ウヤク）　局方生薬
薬用部位	根
薬効	体重増加、消化管運動亢進、血管拡張、血小板凝集抑制作用
用途	芳香健胃整腸薬や鎮痙薬、鎮痛薬として漢方処方に配合される。 芎帰調血飲（キュウキチョウケツイン）、 烏薬順気散（ウヤクジュンキサン）など

城西国際大学薬学部　6年生　青木 則子

春に咲く葡萄色の花

ミツバアケビ

学名：*Akebia trifoliata* Koidzumi　科名：アケビ科

ミツバアケビについては知っていますか。アケビの仲間ですが、異なる点がいくつかあります。

ミツバアケビは3枚の卵型または長卵型の小葉があり、縁は少し波打っています。無毛のつる性木本で匍匐枝を出します。花期は4～5月で、十数個の小型の雄花と1～3個の大型の雌花をつけます。雄花、雌花ともに濃紫色です。

ミツバアケビに対してアケビは5枚の小葉があり、縁は波打っていません。花期は同じですが、雄花が淡紫色で雌花が紅紫色です。見比べてみると一目瞭然ですね。この他にもミツバアケビとアケビの自然雑種でゴヨウアケビという植物もあります。葉の形や花の色はミツバアケビと似ているのですが、小葉が5枚あります。しかし、ゴヨウアケビは雑種であるためか、小葉の枚数が通常より少ないもの、多いもの、1枚の葉が極端に小さいものなど奇形が多く見られます。

木通（日干した茎）には抗炎症、抗ストレス性潰瘍作用のある「サポニン」が含まれています。木通を水で煮て、内服や外用として使うことで抗炎症や抗浮腫作用が期待できます。

アケビ：花の色・葉の枚数がミツバアケビと異なる

生薬名	木通（モクツウ） 局方生薬
薬用部位	茎
薬効	抗炎症、胃酸分泌抑制、抗ストレス潰瘍、利尿、抗浮腫作用
用途	消炎、排膿、利尿、通経作用の目的で、漢方の処方に配合 加味解毒湯（カミゲドクトウ）、五淋散（ゴリンサン）、 当帰四逆湯（トウキシギャクトウ）など

城西国際大学薬学部　6年生　葛生 実玖

お年寄りの味方

カイケイジオウ

学名：*Rehmannia glutinosa* Libosch.　科名：ゴマノハグサ科

カイケイジオウは中国原産で山地、荒れ地に生える多年草です。壊慶（カイケイ）という名は中国の地名が由来となっています。葉は楕円形で表面にちりめん状のしわがあり、濃い緑色をしています。初夏までに数個の淡紅色で中心部が濃紅色の筒状の花をつけます。花の先端は唇のような形をしています。

カイケイジオウはアカヤジオウから改良された植物です。アカヤジオウは生薬名「地黄」として薬局方に収載されており、重要な生薬の1つです。地黄を含む漢方薬として「八味地黄丸」が有名です。八種類の生薬が配合されて、地黄が主薬の丸剤で腎臓の働きの改善をはかり、お年寄りの方に用いられることが多いです。その他にも地黄は増血、解熱、強壮作用があり、貧血や虚弱体質を改善する効果があります。

現在、地黄は原料の多くを輸入に頼っていますが、古くは近畿地方を中心に栽培されていました。奈良県の橿原市に「地黄町」という地名が残っていることから、かつて奈良県で盛んに栽培されていたことがうかがえます。

生薬名	地黄（ジオウ）
薬用部位	根
薬効	増血、強壮、解熱作用
用途	糖尿病、前立腺肥大症、老人性腰痛、白内障などに用いられる。八味地黄丸（ハチミジオウガン）、四物湯（シモツトウ）など

城西国際大学薬学部　6年生　鈴木 羽蘭